

“アジア”の東西南北・古今を縦横無尽に“巡り”廻って
いまとこれからの必要な資料を提供しつづけ四半世紀！
“50 回”を画期として

新たな「アジア巡り」へ出発！

自然の景観・奇観、高地・低地、海・川・湖、熱帯・寒地
大都市・僻村、街並み・家並み、建築、寺院、動植物……
なによりも、

そこに生活する人間との接触・交流を通して
風物・習慣を、土地と社会の歴史に沁み込んだ文化を
実体験した真実の記録集を精選して贈る！

全6卷（第348～353卷）

アジア巡り編

アジア学叢書

《アジア》からの発想は日本と世界を読み解く鍵
《アジア》に全方位から切り込む学際的大シリーズ
《アジア》のことなら、まず「アジア学叢書」から

広大な領域をカバー
テーマ別編集・配本

地域・国・歴史・社会・政治・経済・法律・教育・思想・宗教・風俗・習慣・地誌・風土・交通・旅行
紀行・産業・物産・文化・科学・自然・環境・芸術・民族・戦争・近代・植民地・言語・ことば……

アジアに関することなら、まず「アジア学叢書」で調べる！

既刊353巻 配本一覧

***各巻
分売可**

***最新の在庫情報は
下記・営業部へお問合せください。**

[第1～311巻] 発行：大空社 / 発売：大空社出版
(第1～41回) ISBN978-4-283- ~ *表示価格は定価 (10%税込)

- 1 回 【人類学】9巻(1-9巻) [1996.5]00406-5 104,661円
- 2 回 【宗教】8巻(10-17巻) [96.9]00407-3 106,796円
- 3 回 【近代史】6巻(18-23巻) [97.2]00408-1 106,700円
- 4 回 【人類学2】6巻(24-29巻) [97.4]00409-X 125,400円
- 5 回 【東西交渉史】6巻(30-35巻) [97.9]00410-3 111,100円
- 6 回 【中国思想(諸子学)】8巻(36-43巻) [98.1]00411-1 117,700円
- 7 回 【経済・社会(中国ギルド)】8巻(44-51巻) [98.4]00412-X 121,000円
- 8 回 【教育】9巻(52-60巻) [98.8]00413-8 122,100円
- 9 回 【法制1(中国)】7巻(61-67巻) [99.1]00414-6 149,600円
- 10 回 【演劇】10巻(68-77巻) [2000.4]00415-4 118,800円
- 11 回 【法制2】8巻(78-85巻) [01.5]00416-2 133,100円
- 12 回 【風俗・民族】7巻(86-92巻) [02.11]00417-0 164,540円
- 13 回 【映画・演芸】8巻(93-100巻) [03.9]00418-9 110,550円
- 14 回 【南洋】12巻(101-112巻) [04.2]00419-7 132,110円
- 15 回 【交通史】8巻(113-120巻) [04.6]00420-0 140,800円
- 16 回 【産業・資源】11巻(121-131巻) [04.11]00421-9 147,400円
- 17 回 【地政学】9巻(132-140巻) [05.5]00270-4 132,550円
- 18 回 【森林資源】8巻(141-148巻) [05.11]00279-8 148,500円
- 19 回 【北方・南方森林資源】6巻(149-154巻) [06.4]00286-0 137,500円
- 20 回 【蒙古1】4巻(155-158巻) [06.9]00291-7 122,100円
- 21 回 【地名】6巻(159-164巻) [07.2]00507-5 126,500円
- 22 回 【芸術・文化】9巻(165-173巻) [07.9]00527-3 135,300円
- 23 回 【民族誌】9巻(174-182巻) [08.1]00545-7 150,700円
- 24 回 【アジア写真集Ⅰ】8巻(183-190巻) [08.4]00609-6 122,100円
- 25 回 【アジア写真集Ⅱ】6巻(191-196巻) [08.9]00620-1 132,000円
- 26 回 【農業生活】8巻(197-204巻) [09.4]00727-7 121,000円
- 27 回 【中国を知るⅠ：人と風土】10巻(205-214巻) [09.9]00741-3 137,500円
- 28 回 【中国を知るⅡ：人と社会】9巻(215-223巻) [10.1]00754-3 137,390円
- 29 回 【民俗】9巻(224-232巻) [10.10]00769-7 120,231円
- 30 回 【物産】8巻(233-240巻) [11.4]00790-1 151,800円
- 31 回 【宗教2】8巻(241-248巻) [11.9]00821-2 140,800円
- 32 回 【神話・伝説】6巻(249-254巻) [12.4]00822-9 123,200円
- 33 回 【海運】7巻(255-261巻) [12.9]01108-3 128,150円
- 34 回 【アジア写真集Ⅲ】6巻(262-267巻) [13.4]01115-1 134,200円
- 35 回 【紀行】8巻(268-275巻) [13.9]01124-3 128,800円
- 36 回 【旅行・案内記】6巻(276-281巻) [14.4]01131-1 132,000円
- 37 回 【華僑】7巻(282-288巻) [14.9]01139-7 129,800円
- 38 回 【民族】7巻(289-295巻) [15.4]01147-2 123,200円
- 39 回 【南洋2】5巻(296-300巻) [15.9]01153-3 145,640円
- 40 回 【アジアの海と島々】5巻(301-305巻) [16.4]01159-5 129,250円
- 41 回 【ビルマを知る】6巻(306-311巻) [16.9]01166-3 121,000円
- 42 回 【総目次】3巻(312-314巻) [17.8]978-4-908926-11-2 80,300円
◎第1～311巻の詳細目次＝テーマ・固有名採しに至便(全新組)
- 43 回 【南方事情(多岐)】6巻(315-320巻) [18.4]978-4-908926-48-8 88,000円
- 44 回 【台湾】4巻(321-324巻) [18.9]978-4-908926-60-0 96,800円
- 45 回 【エリア・山東】3巻(325-327巻) [19.8]978-4-908926-68-6 85,800円
- 46 回 【エリア・長江】6巻(328-333巻) [19.12]978-4-908926-75-4 99,000円
- 47 回 【言語(タイ語)】4巻(334-337巻) [20.4]978-4-908926-80-0 115,500円
- 48 回 【食(中国)】5巻(338-342巻) [20.10]978-4-908926-86-0 107,800円
- 49 回 【言語2(マレー語)】5巻(343-347巻) [21.4]978-4-908926-92-1 123,750円
- 50 回 【アジア巡り】6巻(348-353巻) [2021.12]978-4-908926-99-0 121,000円

研究機関・図書館・研究室に全巻を！

必要巻は個人で！

*全巻(既刊)リストはホームページに掲載しています。
*ホームページにない詳細案内はご請求ください。

學術資料出版

大空社出版

eigyo@ozorasha.co.jp
TEL:03-5963-4451 / FAX:03-5963-4461
東京都北区中十条 4-3-2 (〒114-0032)

資料に命いのちを
作品に心こころを
形にして伝える。

www.ozorasha.co.jp

お取扱い

アジア学叢書

第50回配本

* 2021 年 12 月刊

アジア巡り 編
全6巻(第348~353巻)

全6巻揃 ISBN 978-4-908926-99-0
定価 121,000 円 (本体 110,000 円 + 税10%)
*各巻 A5 判・上製・クロス装・総約2300 頁

*各巻
分売可

348. カメラとペン 蘭印踏破行 渋川環樹 著
440 頁 978-4-908926-93-8 定価 23,650円(本体 21,500円+税 10%)

349. インドネシアン 蘭印の実体 竹井十郎 著
370 頁 978-4-908926-94-5 定価 20,350円(本体 18,500円+税 10%)

350. 南洋景觀 高宮久太郎 著
220 頁 978-4-908926-95-2 定価 13,200円(本体 12,000円+税 10%)

351. 南太平洋踏査記 秋本貫一 著
420 頁 978-4-908926-96-9 定価 22,000円(本体 20,000円+税 10%)

352. 樺太風物抄 谷内尚文 著
250 頁 978-4-908926-97-6 定価 14,300 円 (本体 13,000 円 + 税 10%)

353. アラビア奥地行 シーブルック著・斎藤大助 訳
600 頁 978-4-908926-98-3 定価 27,500円(本体 25,000円+税 10%)

❖本配本の内容に特に関連する領域❖

[地域・エリア] インドネシア・オランダ・南太平洋・南洋諸島（ニューギニア・ニューカレドニア・フィジー・ミクロネシア・トンガ・サモア・ソロモン・カロリン・マーシャル他）・フィリピン・ニュージーランド・中国／アラビア（シリア・ヨルダン・イラク他）・トルコ／サハラ（権太）・ロシア…

[分野・テーマ・キーワード] 近現代史（政治・経済・女性・権力者・植民地・委任統治）・東洋史・地理・地誌・南洋・太平洋・大東亜戦争・第二次世界大戦／民族・アイヌ・部族・宗教（イスラム教・仏教・秘教・寺院・司祭）・祭祀・思想・教育・産業（商業・交易・漁業・農業）・交通・資源・建築・都市・生活・民衆・慣習・民俗・風物・文化・美術・工芸・劇・舞踊・音楽・自然（海洋・島嶼・火山・河川・氷河・ツンドラ）・動植物・環境・観光…

學術資料出版

大空社出版



アジア巡り編

全6巻(第348〜353巻)

348 巻
カメラとペン
蘭印踏破行

カメラとペン

蘭印踏破行

洪川環樹 著



A5判・上製・440頁
978-4-908926-93-8
定価23,650円
(本体21,500円＋税10%)

●収録
写真160点
蘭印大地図2点(折込)

【復刻原本：有光社 1941・昭和 16 年刊】

著者は記者で、執筆時は読売新聞特派員、シンガポール支社長（のちジャカルタ支局長）。第二次世界大戦が激しさを増す中、1940年8月から4ヶ月間、オランダ領東印度を巡った見聞記。**おびただし数の写真が臨場感**をもって当時の風物・生活の姿をいまに残している。人々との会話・談話も豊富、記者らしい読みやすい文章で、場面、当時の背景情報と軽快に話が展開する。

【目次抄】①南への船出 ②ジャバ（スラバヤ、古き王都ジョクジャ、水城、ボルボドールとブランバナン）の仏蹟、土人部落の日本人物産商、首都バタヴィア、ボイテンゾルク熱帯植物園）③スマトラ（スンダ海峡を越えて、石油の都パレンバン、土人船で鰐棲む川を遡る、マラロビイの平和郷、山間の町チューロップを経て印度洋岸へ、中部縦断道路、森の都バダン市、メナカボー族の中心城市ポートデコック、月光砕けるシボルガー港、バタ族の部落を訪ねて、黄菊白菊おかるプラスタギー、邦人活動の中心メダン市、抗戦30年アチエ人の古都コタラヂャ、西端島サバンへ、ジャングルの空を飛ぶ）④ボルネオ（霧の町バンジェルマシ、領土を日本に献上：熱血王の秘史、老邦人祖国への抗議、ダイヤの露天掘、焰の原野をぬけて、髑髏の門：ダイヤ族の首塚、土人ゴムの中心地帯、胡蝶蘭の島にて、石油の城砦バリクパン、水と空覆ふ油井槽：サンガサンガ）⑤セレベス（ドンガラの港を過ぎて、南洋桜さくマカッサ港、夏草茂る戦の跡、ブギス族の土地、往年の大親分・石橋老との邂逅、山駕籠ののって金山へ、トラチャ族の秘境、鬼気迫る絶壁の墓、メナド附近



348.より

石油タンク

349 巻
インドネシアン
蘭印の実体

蘭印の実体

竹井十郎 著



A5判・上製・370頁
978-4-908926-94-5
定価20,350円
(本体18,500円＋税10%)

●収録
写真17点

【復刻原本：岡倉書房 1941・昭和 16 年刊】

「邦人は蘭印の土人というが、土人という言葉が、もし「土地の人」の意であるなら、吾々日本人も、日本の土人と呼ぶべきであろう。しかも天下誰一人、吾人を日本の土人と呼ぶものはない。けだし土人という言葉は、未開野蛮人の意に於て使われて居るからである。この一事を以てするもいかに邦人が民族に関する知識なく、民族研究の要が、いかに尊いものであるかを知らぬ証左であろう。」…日本人と戦争とアジア・民族と、一色で塗りつづせる「**歴史**」はないことを思わせる貴重な民間人の研究。明治39年(1906)東印度に渡りインドネシア人の生活圏内に入り**23年間、直接触れた経験**をもとに、「同胞日本人」に向け、もっと知れと啓発を促す民族研究の成果。

【目次抄】①馬來多島海（インドネシアとは東印度のこと）②民族（ジャワ3種族、外領各地種族）③言語（馬來語と多島海史、種族語）④信仰（万物と精霊、精魂の名称と夢、精霊界の方位と精霊旅行、生者と死者の精魂、神様の色）⑤歴史（米と黄金の国、ヒンズー人の渡来、香料と地中海、セイロン島・耶婆提・広東、支那の扇と法顕、宋・唐・元、モジョバイット王国、政治体系、古代暦と農事、イスラムと政権争奪、群雄割拠と欧洲人の侵入）⑥宗教（印度宗教、仏教とジャワ、仏教は貴族宗教、シヴ神崇拜、誤解誹謗されたイスラム教）⑦古代遺物（ボロブゾル大寺院）⑧劇と音楽（祖先崇拜、ワヤン劇、ワヤンは全人類の影、舞台と人形の配置、仮面劇、道化面、楽器）⑨文学（古代、ラーマヤナ物語、創世記、神牛問答、米に関する信仰と神話、モハマダンジャワ文学、年代史）⑩農事と祭儀（甘蔗、古凶暦ポンチョ・スド、スラムタン）⑪民族運動史（民族自決の声、サリカット・イスラム、社会主義とイスラム聯盟、共産思想、タン・マラカと比律賓、復古思想、モハマダア）⑫大同團結運動小史（東印度民族政治団体聯合会、インドネシア国民会議）⑬人民參議會（総督の諮問機関、選挙権）⑭青年運動（青年ジャワ、青年インドネシア、ボーイスカウト、蹴球聯盟）⑮婦人運動（先覚者カルチニ嬢、思想界、婦人団体の色々）⑯教育（教育ある奴隷、庶民教育、教育費、思想的自覚と日本留学）

350 巻
南洋景觀

南洋景觀

高宮久太郎 著



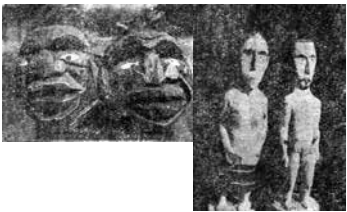
A5判・上製・220頁
978-4-908926-95-2
定価13,200円
(本体12,000円＋税10%)

●収録
写真・図31点

【復刻原本：八雲書林 1940・昭和 15 年刊】

「本書は或る固い雑誌のいわば埋草用（…）の集積を基にしたのであるから、叙述の筆は外面的な聞見の平明な説明に終始し又一貫した趣意にも乏しいが、その代り主観的な臭みと体系的な硬さとは出来るだけ遠ざけたつもりである。群島を知ろうとする向に、ほんの手引ともなれば幸である。」しかし「孫びきの説明や中味のない概念を出来るだけ排除して、**素直に見たまま聞いたまま**を記そう」の精神で書かれている。いわゆる委任統治領・内（裏）南洋の諸島を紹介する。

【目次抄】風物を語る / カロリン・マールシャル群島往還記（パラオ島、トラック島、ボナペ島、クサイ島、ヤルート島）/ パベルダオブ島日誌 / ベリリウ・アングウル島行 / アイライ殖民地を訪う、アイライ村の一日 / ヤップ・テニアン・サイパン島巡航録



350.より

*写真・絵を多数収録するものが多いですが、文章は平明、論文調でないため、専門家だけでなく一般読書家にもお勧めできる良書ばかりです。

南へ西へ北へ
今回の主な巡り先は
南洋・東南アジア
アラビア・樺太

349.より



小学校

351 巻
南太平洋踏査記

南太平洋踏査記

秋本貫一 著



A5判・上製・420頁
978-4-908926-96-9
定価22,000円
(本体20,000円＋税10%)

●収録
写真104点
南太平洋地図1点(折込)

【復刻原本：日比谷出版社 1943・昭和 18 年刊】

昭和15年(1940)11月から翌年元旦まで約2ヶ月の南洋諸島実情調査の記録。1941年12月、大東亜戦争勃発を機に、**南洋群島に四半世紀在住**し、現地と在留邦人の消息に通じていた経験をもとに、あまりに「知らない内地人」のためにあえて筆をとった。

【目次抄】横浜を解纜して / 南洋群島の概況 / 赤道越えてボナペよりラバウルへ / コブラの大集散地ラバウル港 / 黄金国サルモア / お伽の島サモライカ / 軍港地ポート・モレスビー / 鉱物の天国・仏領ヌメア市 / 金と砂糖の大産地フィジー・スヴァ市 / 永年在住した邦人の談話 / 夢の王国トンガ諸島 / 立志伝中の人伴野安伸氏 / 世界の極楽地ニュー・ジラード / 英領サモアと米領サモア / 呉越同舟英仏共管ポート・ビラ / おう玉手箱ソロモン群島 / ソロモンの要港ボーガンビル・キータ / 復航に観るラバウル / 魚族の殿堂ニュー・アイランド・ケビアン

352 巻
樺太風物抄

樺太風物抄

谷内尚文 著



A5判・上製・250頁
978-4-908926-97-6
定価14,300円
(本体13,000円＋税10%)

●収録
絵12点

【復刻原本：七丈書院 1944・昭和 19 年刊】

著者は北陸（富山）出身の画家・美術教師（と推測される）で、樺太に在住。昭和19年時点で樺太には約40万人の邦人が生活していた。北方寒地での日常の暮しぶりが、適切な背景説明（歴史・地理等）と**芸術家的感性**をもって肌身に伝わってくる描写の**読みやすい文章**で綴られた好風物記。

【目次抄】樺太の冬 / オロッコの話 / 熊射ちの話 / 樺太の酪農 / 突阻山紀行 / 写真帳より（残雪、水芭蕉、鯨場風景、白樺、馬轡） / たんぽぽ / 山女と蟬 / 連絡船 / 山と草の実 / 小沼の秋 / ヒュッテ泊り / 啄木鳥 / 草原詩情（雲と草原、野花、原始林、サガレンの追想、敷香にて、オタスの杜・土人部落） / 氷河 / ツンドラに夕陽は沈む / 海豹島 / 樺太の春 / 芸術と北方自然観

352.より

オロッコの家族



司祭



騎兵隊

353 巻
アラビア奥地行

アラビア奥地行

シールブック 著・斎藤大助 訳



A5判・上製・600頁
978-4-908926-98-3
定価27,500円
(本体25,000円＋税10%)

●収録
写真・図72点

【復刻原本：大和書店 1943・昭和 18 年刊】

原著者 W.B. Seabrook (1884-1945) は原始民族特に**宗教**を研究したアメリカ人作家。本書（1927年刊）、アラビア北部辺境地帯の調査・探索は1925年になされた。「著者の観察の焦点は、あくまで宗教に在るのであって、民族運動と称するが如き政治面は一切これを押し殺している（訳者序）」の通り、強盗、武器、沙漠、城壁、遊牧、駱駝、騾馬、山羊、騎馬、商隊、テント、食事、絨毯、礼拝、キリスト教論、托鉢僧、巡礼、裁判、刑罰、婦人、出産、子供、祭、アラビア語、詩歌…**現地人との会話**が豊富に挿入されて、**回教・イスラム的世界**が眼前に生き生きと展開され、古びない記録となっている。

【目次抄】①ペドウィン（Bedouins）と共に（アルラーの面前に / 黒テントに白駱駝 / 沙漠の仇花 / 奴隸マンスール / 盗賊聖人 / 吾襲撃に出陣す / グトネの瞳のために）②ドルーズ人（Druses）と共に（サルタン・パシヤ・アトラシの居城 / 黄金の犢（？） / ムフタラのヴェールの貴婦人）③デルヴィッシュ（Dervishes）と共に（メーレウィの大僧院 / 跳び下りたダイダン・ヘルミー / ルーファイ教の苦行者）④イジィデー人（Yezidee）と共に（悪魔崇拜教の山中へ / 蛇の中庭）

353.より

青年兵士



寝そべるラクダ

*本パンフレットでは、引用は読みやすさを考慮し現代表記に改めています。また今日的に不適切な用語を原典のまま使用した場合があります。見本はすべて縮小です。